

江戸川亂歩

短篇小說選

◀ 日漢對照有聲版 錢曉波 譯

中和出版
OPEN PAGE
中

目錄

譯者導讀 日本戰前推理小說小史：亂步登場 / 001

二錢銅貨 / 006

二錢銅幣 / 007

譯者解讀 處女作《二錢銅幣》 / 080

白晝夢 / 082

白日噩夢 / 083

指環 / 100

戒指 / 101

譯者解讀 《白日噩夢》與《戒指》

——亂步·林奇·潤一郎 / 112

押絵と旅する男 / 116

與押繪一同旅行的男子 / 117

譯者解讀 浮世映夢映世浮

—— 淺析《與押繪一同旅行的男子》 / 186

日本戰前推理小說小史：亂步登場

一、亂步登場前的日本推理小說

美國小說家埃德加·愛倫·坡 (Edgar Allan Poe) 於 1841 年發表了《莫格街謀殺案》(*The Murders in the Rue Morgue*)。這部小說作為世界首部推理小說而被載入世界文學史冊。由此，埃德加·愛倫·坡亦成為世界推理小說當仁不讓的鼻祖。

1887 年 12 月，饗庭篁村將《莫格街謀殺案》翻譯後刊載在《讀賣新聞》，成為最早將愛倫·坡作品介紹到日本的作家。當時在日本，翻譯小說盛行，除饗庭篁村外，黑岩淚香也是當時極負盛名的翻譯家之一。黑岩淚香譯介了凡爾納、大仲馬、雨果等作家創作的世界名著。同時其本人也熱衷創作小說，1889 年 9 月發表在《小說叢》上的《無慘》則被稱為日本首部推理小說。

不僅在大眾文學領域，在純文學領域中也有不少作家對日本推理小說的發展做出了傑出的貢獻。比如，明治文學的巨匠森鷗外於 1913 年 6 月在《新小說》上翻譯發表了愛倫·坡的《莫格街謀殺案》(以《醫院小巷的殺人犯》為題)。

被四次提名諾貝爾文學獎的唯美主義文學代表作家谷崎潤一郎，更是在 20 世紀 20 年代前後集中創作了一大批具有推理小說雛形的文學作品。比如，《前科者》(1918 年)、《柳湯事件》(1918 年)、《人面疽》(1918 年)、《被詛咒的戲曲》(1919 年)、《途中》(1919 年)、《某種犯罪的動機》(1922 年)等。此外，純文學作家佐藤春夫、林房雄、片岡鐵兵等也都曾創作並在著名的大眾文學刊物《新青年》上發表過推理小說。

歐美推理小說的譯介以及日本推理小說的興起都直接對江戸川亂步的創作產生了推動作用。江戸川亂步曾直言自己的創作深受谷崎潤一郎的影響。比如《途中》這部作品，江戸川亂步認為無論其新穎的敘事手法還是對於犯罪縝密的推理等，都完全可以和西方的同類小說相匹敵，是一部「值得日本引以為驕傲的偵探小說」。

明治、大正時代，這些小說家、翻譯家將外國小說大量譯介至日本，可以說在不同程度上對日本推理小說的發展起到了啟蒙和推動作用。這些作品對少年時期的江戸川亂步影響極大，直接推動其走上職業作家的生涯。而江戸川亂步的登場，則為日本推理小說的發展開創了全新的局面，將日本戰前推理小說推向高潮。

二、亂步登場

江戸川亂步，原名平井太郎。1894年10月出生於三重縣名張市。中學時代開始大量閱讀押川春浪、黑岩淚香等創作或翻譯的小說，對於偵探、推理、怪奇、科幻等領域的文藝作品產生了相當濃厚的興趣。亂步考入早稻田大學政治經濟系專業後，依然對這些領域的文藝作品情有獨鍾，同時也大量閱讀刑偵類專業書籍。從早稻田大學畢業後，亂步的工作經歷極為豐富，嘗試過各種職業。曾在貿易公司、造船廠、二手書店、麵館，甚至還在偵探事務所工作過。通過形形色色的社會工作，亂步積累了豐富的社會生活經驗，這些均為其之後的小說創作提供了大量鮮活的素材。

江戸川亂步對於世界推理小說的鼻祖埃德加·愛倫·坡極為推崇，這點從其筆名即可看出。江戸川亂步即為埃德加·愛倫·坡日語讀音的諧音，再配上漢字而成。

1923年12月，江戸川亂步在《新青年》上發表了處女作——短篇小說《二錢銅幣》，開始了自身推理小說的創作生涯，同時也將日本推理小說逐步推向新的高度。

《二錢銅幣》的發表使得江戸川亂步在日本推理小說界獲得了相當高的評價。其後陸續在《新青年》上發表了《D坂殺人事件》《心理實驗》等膾炙人口的名作。受愛倫·坡、柯南道

爾等歐美推理作家的影響，亂步的初期作品多為「本格派」的類型，即通過偵探縝密的分析和細緻的解讀，對陷入謎團，難以捉摸的犯罪事實進行偵破，最終揭開犯罪之謎的過程。亂步的「本格派」作品在推理小說界獲得了讚許和肯定，然而，一般讀者對此類專業性較強的偵探推理小說卻似乎反應平平，大多數讀者更熱衷於具有怪奇、幻想、恐怖情節的小說。受此影響，亂步開始着手此類被稱為「變格派」類型的小說創作。《人間椅子》《鏡子地獄》等名作即屬於「變格派」小說。亂步的「變格派」作品手法新穎、思路奇特，同樣受到了推理小說界極高的評價，並受到讀者廣泛的歡迎。江戸川亂步的這些成就使得其在短短幾年便成為日本推理小說宗師級人物，為推理小說在日本的隆盛起到了相當大的作用。

1931年5月，《江戸川亂步全集》共13卷由平凡社開始刊行，其銷售量總計竟然達到24萬冊。江戸川亂步作品受歡迎程度之高由此可見一斑。平凡社是以出版百科全書聞名的老牌出版社，據說當時已趨於沒落，瀕臨倒閉，全靠亂步全集的出版發行獲得了巨大的利潤，才由此扭虧為盈。

作家的全集一般均在其去世後才會被整理出版，而江戸川亂步生前就已在各出版社刊行了四次全集。這在日本文學界極為罕見，從中也可見亂步作品的魅力。

作為日本推理小說宗師級人物，江戸川亂步可謂實至名歸。無論是「本格派」抑或「變格派」，亂步構思奇特、推理嚴謹、環環相扣、機智驚險的作品在海內外贏得了極高的評價。他所創造的偵探形象——明智小五郎膾炙人口，廣受讀者歡迎。江戸川亂步在文學事業上獲得了巨大成功，在日本推理小說史上留下了閃光的足跡，同時，也為戰後乃至現代日本推理小說的發展和壯大打下了堅實的基礎。

に せん どう か 二銭銅貨

上

「あの泥坊が羨しい」二人の間にこんな言葉が交される程、其頃は窮迫していた。

場末の貧弱な下駄屋の二階の、ただ一間しかない六畳に、一閑張りの破れ机を二つ並べて、松村武とこの私とが、変な空想ばかり逞しゅうして、ゴロゴロしていた頃のお話である。

もう何もかも行詰ってしまって、動きの取れなかった二人は、丁度その頃世間を騒がせた大泥坊の、巧みなやり口を羨む様な、さもしい心持になっていた。

その泥坊事件というのが、このお話の本筋に大関係も持っているので、ここにザッとそれをお話して置くことにする。

芝区のさる大きな電気工場の職工給料日当日の出来ごと事であった。十数名の賃銀計算係が、一万に近い職員のタイム・カードから、それぞれ一ヶ月の賃銀を計算して、やまと積まれた給料袋の中へ、当日銀行から引出された、

二錢銅幣

上

「那個賊可真令人羨慕。」從兩人的會話中，便可體會那個時候我們是何其窘迫。

地處偏僻，外觀破舊的木屐店二樓，在鋪着六張榻榻米¹的一間和式小房間裡，並排着兩張破破爛爛的簡易書桌。松村武和我無所事事，賴在榻榻米上，百無聊賴地做着宏大的白日夢。

兩人一籌莫展，束手無策。不禁羨慕起那個將世間鬧得沸沸揚揚的大盜。他的手段實在太過精妙，令人多少會產生點齷齪的念頭。

說起那個大盜，倒和我要講的這個故事有很大關係。需要在這裡大致交代一下。

這事發生在芝區²某大型電器工廠發工資的日子。十幾名負責勞資的工作人員根據全廠近一萬名工人的考勤卡，計算出當月工資。當天從銀行取來的二十日元、十日元、五日

1 約十平方米。譯者注。

2 東京的一個區。1947年後與麻布區、赤坂區合併為港區。譯者注。

いちばん かばん いっぱい にじゅうえん じゅうえん ごえん
一番の鞆に一杯もあろうという、二十円、十円、五円な
どのさつを^{あせ}汗だくになって^{つめこ}詰込んで^{さなか}いる最中に、^{じむしょ}事務所の
げんかん ひとり しんし おとず
玄関へ一人の紳士が訪れた。

うけつけ おんな らいい たず わたし あさひ しんぶん きしや
受付の女が来意を尋ねると、私は朝日新聞の記者であ
るが、^{しはいにん}支配人にちょっとお眼にかかりたいという。そこで
おんな どうきやうあさひ しんぶんしやかい ぶ きしや かたがき めいし も
女が、東京朝日新聞社会部記者と肩書のある名刺を持っ
て、^{しはいにん}支配人にこの事を通じた。

さいわい しはいにん しんぶん きしやそうじゅうほう
幸なことには、この支配人は、新聞記者操縦法がうま
いことを、一つの^{ひと}自慢^{じまん}にしている男であった。のみならず、
しんぶん きしや あいて ほら ふ じぶん はなし なになにしだん
新聞記者を相手に、法螺を吹いたり、自分の話^{おとこ}が何々氏談
などとして、新聞に載せられたりすることは、大人気ない
とは思いながら、^{おも}誰しも^{だれ}悪い^{わる}気持^{きもち}はしないものである。^{しや}社
かい ぶ きしや しょう おとこ こころよ しはいにん へ や しょう
会部記者と称する男は、むしろ快く支配人の部屋へ請
じられた。

おお べつこうぶち めがね うつく くちひげ き
大きな鼈甲縁の眼鏡をかけ、美しい口髭をはやし、気
の利いた黒のモーニングに、^{りゅうこう}流行^{おりかばん}の折鞆といういでち
のその男は、如何にも物慣れた調子で、支配人の前の椅
す こし おろ
子に腰を下した。そしてシガレット・ケースから、^{こうか}高価な
エジプトの紙巻煙草を取出して、^{かみまきたばこ}卓上^{とりだ}の灰皿^{たくじょう}に添えられた
マッチを^{てぎわ}手際よく^す擦ると、^{あおみ}青味^{けわり}がかつた煙^{しはいにん}を、^{はな}支配人の鼻

元紙幣塞滿了最大一個手提包。就在大家正大汗淋漓地將錢塞進堆成小山似的工資袋中的時候，辦公室的門口來了一位紳士。

負責接待的女事務員詢問其來意，答道，我是朝日新聞記者，有事想拜會下廠長。於是，女事務員拿着印有東京朝日新聞社會部記者的名片，將此事通報給了廠長。

幸好這個廠長自認為應付報社記者還比較在行。而且，在報社記者面前吹吹牛，在報上刊載某某氏談之類的消息，雖不穩重，倒也沒人討厭這種事情。所以，自稱社會部記者的這個男人，很順利地被請進了廠長的辦公室。

戴着大大的玳瑁眼鏡，留着優雅的小鬍子，身著瀟灑的黑色禮服，夾着一個流行的公文包，這個男人以一種相當老練的姿態在廠長面前的椅子上落座後，從雪茄盒中抽出一根昂貴的埃及捲煙，利落地用桌上煙缸旁的火柴點燃後，呼出一口青煙悠悠地朝廠長的鼻尖飄去。

先へフツと吹出した。

「貴下の職 工待遇問題に関する御意見を」

とか、何とか、新聞記者特有の、相手を呑んでかかった様な、それでいて、どこか無邪気な、人懐っこい調子で、その男はこう切出した。

そこで支配人は、労働問題について、多分は労資協調、温情主義という様なことを、大いに論じた訳であるが、それはこの話に関係がないから略するとして、約三十分ばかり支配人の室に居った所の、その新聞記者が、支配人が一席弁じ終ったところで「ちょっと失敬」といって便所に立った間に、姿を消してしまったのである。

支配人は、無作法な奴だ位で、別に気にもとめないで、丁度昼食の時間だったので、食堂へと出掛けて行ったが、暫くすると近所の洋食屋から取ったピフテキか何かを頬張っていた所の支配人の前へ、会計主任の男が、顔色を変えて、飛んで来て、報告することには、

「貸銀支払の金がなくなりました。とられました」

と云うのだ。

驚いた支配人が、食事などはそのままにして、金のなくなったと云う現場へ来て調べて見ると、この突然の盗難

「我想就職工待遇的問題聽聽您的意見。」

如此這般，男人以報社記者特有的、咄咄逼人，同時又明快、熱絡的口吻開始了採訪。

於是，廠長就勞動問題，大概也就是諸如勞資協調、溫情主義等高談闊論了一番。這些話與本故事關係不大，暫且省略。報社記者在廠長辦公室待了大約三十分鐘，等廠長的演講告一段落，說了聲「失陪」便去了洗手間，誰知就此蹤影皆無。

真是個沒禮數的傢伙，廠長並未多想，正好到了午餐時間，便去了食堂用餐。正當廠長狼吞虎嚥地吃着附近的西餐館送來的牛排時，工廠的男會計主任驚慌失措、慌裡慌張地趕來向廠長彙報：

「支付工資的錢不見了。被盜了。」

廠長大吃一驚，放下未吃完的午餐，直奔失竊財物的現場進行勘察。對於這突如其來的盜竊事件，差不多能想像出

の仔細は、大体次の様に想像することが出来たのである。

丁度其当時、その工場の事務室が改築中であつたので、いつもなれば、嚴重に戸締りの出来る特別の部屋で行われるはずの貸銀計算の仕事が、其日は、仮に支配人室の隣の応接間で行われたのであるが、昼食の休憩時間に、どうした物の間違いか、其応接間が空になってしまったのである。事務員達は、お互に誰か残ってくれるだろうという様な考えで、一人残らず食堂へ行ってしまうと、後には鞆に充満した札束が、ドアには鍵もかからないその部屋に、約半時間程も、抛り出されてあつたのだ。その隙に、何者かが忍入って、大金を持去つたものに相違ない。それも、既に給料袋に入れられた分や、細いさつには手もつけないで、支那鞆の中の二十円札と十円札の束だけをもち去つたのである。損害高は約五万円であつた。

色々調べて見たが、結局、どうも先程の新聞記者が怪しいということになった。新聞社へ電話をかけて見ると、案の定、そういう男は本社員の中にはないという返事だ。そこで、警察へ電話をかけるやら、貸銀支払を延す訳には行かぬので、銀行へ改めて二十円札と十円札の準備を頼むやら、大変な騒ぎになつたのである。

以下的大致情形。

當時，工廠的辦公室正在改建。如在平常，計算工資應該在鎖得很牢的特別的房間裡進行。而那天，臨時就在廠長辦公室隔壁的會客室處理了。午餐時間，不知哪個環節出了問題，會客室內空無一人。事務員都認為有人會守在那兒，結果全都跑到食堂吃午飯去了。大約有半小時，塞滿中式手提箱的成捆的現鈔就丟在了未上鎖的會客室裡。一定是趁着這個間隙，有人偷偷溜進會客室，拿走了巨款。然而那些已裝入工資袋，或者小面額的鈔票並未被拿走，只拿走了手提箱中成捆的二十日元、十日元的鈔票。損失額約五萬日元。

大家尋找了各種線索，最後，疑點集中在方才的新聞記者身上。有人向報社打電話詢問此人情況，果不出所料，報社回覆，員工中並無那樣的男性。於是，有給警察打電話報案的，也有因不能延遲工資發放、讓銀行重新準備二十日元和十日元紙幣的，廠內亂作了一團。

彼の新聞記者と自称して、お人よしの支配人に無駄な議論をさせた男は、実に、当時新聞が、紳士盗賊という尊称を以て書き立てた所の大泥坊であったのだ。

さて、管轄警察署の司法主任其他が臨検して調べて見ると、手懸りというもの一つもない。新聞社の名刺まで用意して来る程の賊だから、なかなか一筋縄で行く奴ではない。遺留品などあろう筈もない。ただ一つ分っていた事は、支配人の記憶に残っているその男の容貌風采であるが、それが甚だ便りないのである。というのは、服装などは無論取替えることが出来るし、支配人がこれこそ手懸りだと申した所の、鼈甲縁の眼鏡にしろ、口髭にしろ、考えて見れば、変装には最もよく使われる手段なのだから、これもあ当てにはならぬ。

そこで、仕方がないので、盲目探しに、近所の車夫だとか、煙草屋のお上さんだとか、露天商人などという連中に、かくかくの風采の男を見かけなかったか、若し見かけたらどの方角へ行ったかと、一々尋ね廻る。無論市内の各巡査派出所へも、この人相書きが廻る。つまり非常線が張られた訳であるが、何の手ごたえもない。一日、二日三日、あらゆる手段が尽された。各停車場には見張りがつけられた。

原來那個自稱報社記者，讓性情和善的廠長白白做了場演講的男子，便是當時在報紙上被冠以「紳士盜賊」的尊稱、炒作得沸沸揚揚的大盜。

轄區警察署的司法主任及其他警察來現場勘查後，未發現任何蛛絲馬跡。特地做好報社名片來行竊的盜賊，看來不是個輕易就能抓到的人物，自然也不會留有任何遺留物。唯一的線索，便是廠長記憶中留存的男子的容貌長相。但這也很不靠譜。因為衣服等完全可以替換，廠長提供的那些線索，無論是玳瑁眼鏡，還是小鬍子，想想都是最常用的化裝手段。自然這些也無法作為有力的線索。

就此也別無他法，只能盲目地詢問些附近的車夫、香煙店的老闆娘、露天攤販等，是否看到過有如此這般長相的男子，如果看到過那麼他是往哪個方向跑掉的。一個接一個地詢問，展開調查。當然嫌疑人素描像也已分發至市內各派出所。也就是說警方已經佈控好警戒線，但卻沒有任何令人滿意的結果。一天、兩天、三天，警方殫精竭慮，用盡了各種手段。在各個停車場佈置了偵察警力，向各府縣的警察署拍

かく ふ けん けいさつしょ いらい でんぼう ほつ
各府県の警察署へ依頼の電報が発せられた。

かようにして、一週間は過ぎたけれども賊は挙がらない。
もう絶望かと思われた。彼の泥坊が、何か他の罪をでも犯
して挙げられるのを待つより外はないかと思われた。工場
の事務所からは、其筋の怠慢を責める様に、毎日毎日警察
署へ電話がかかった。署長は自分の罪でもある様に頭
を悩した。

そうした絶望状態の中に、一人の、同じ署に属する刑事
が、市内の煙草屋の店を、一軒ずつ、丹念に歩き廻っていた。

市内には、舶来の煙草を一通り備付けていようという
煙草屋が、各区に、多いのは数十軒、少い所でも十軒
内外はあった。刑事は殆どそれを廻り尽して、今は、山の
手の牛込と四谷の区が残っているばかりであった。

今日はこの両区を廻って、それで目的を果さなかつたら、
もういよいよ絶望だと思った刑事は、とみくじの当り番号
を読む時の様な、楽しみとも恐れともつかぬ感情を以て、
テクテク歩いていた。時々交番の前で立止っては、巡査に
煙草店の所在を聞訊しながら、テクテクと歩いていた。刑
事の頭の中は FIGARO. FIGARO. FIGARO. とエジプト煙草
の名前で一杯になっていた。

發了協助調查的電報。

就這樣過了一週也仍未抓到盜賊。警方已陷入了絕望，似乎只能寄希望於這個賊犯下其他罪行而被逮捕。工廠辦公室則如同責難警方失職似的，每天都往警署打電話詢問案件進展，弄得署長如同自己犯了罪一樣煩惱得不得了。

就在這樣一種絕望的狀態中，同警署的一個負責刑偵的警官對市內的煙雜店仔細地一家一家進行了排查。

市內出售各種進口香煙的店舖，各區多的有數十家，少的也有十家左右。警官幾乎跑遍了所有這些店，現在還未排查的只剩下山手地區的牛込以及四谷區內³的店舖了。

今天調查完這兩個區，如果仍然一無所獲的話，那麼就真要絕望了。警官懷着如同查對彩票號碼時期待又忐忑的心境，快步走着。有時會在路邊的警察亭前停下來，向巡警打聽香煙店的詳細方位，然後繼續快步前行。腦海中閃現的淨是 FIGARO、FIGARO、FIGARO，整個腦袋已經被這種埃及香煙給佔滿了。

3 牛込區與四谷區在 1947 年後與淀橋區併為新宿區。譯者注。

ところが、牛込の神楽坂に一軒ある煙草店を尋ねる積りで、飯田橋の電車停留所から神楽坂下へ向って、あの大通りを歩いている時であった。刑事は一軒の旅館の前で、フト立止ったのである。というのは、その旅館の前の、下水の蓋を兼ねた、御影石の敷石の上に、余程注意深い人でなければ、眼にとまらない様な、一つの煙草の吸殻が落ちていた。そして、何んと、それが刑事の探し廻っていた所のエジプト煙草と同じものであったのである。

さて、この一つの煙草の吸殻から足がついて、さしもの紳士盜賊も遂に獄裡の人となったのであるが、その煙草の吸殻から盜賊逮捕までの径路にちょっと探偵小説じみた興味があるので、当時のある新聞には、続き物になって、その時の何某刑事の手柄話が載せられた程であるが——この私の記述も、実はその新聞記事に拠ったものである——私はここには、先を急ぐ為、極簡単に結論だけしかお話ししている暇がないことを遺憾に思う。

読者も想像されたであろう様に、この感心な刑事は、盜賊が工場の支配人の部屋に残して行った所の、珍らしい煙草の吸殻から探偵の歩を進めたのである。そして、各区の大きな煙草屋を殆んど廻り尽したが、仮令おなじ煙草を

警官正打算去牛込區神樂坂的一家香煙店排摸調查，從飯田橋的電車站走向神樂坂下。正走在大馬路上的時候，突然在一家旅館門口停下了腳步。旅館門前有一塊兼做陰溝蓋的花崗岩墊腳石。不仔細看根本不會注意到，在花崗岩上掉落了一個煙頭。而且，還竟然和警官一直在苦苦尋找的埃及香煙是同樣的品種。

以這個煙頭為線索，精明狡猾的紳士盜賊終於落入法網。從尋獲煙頭至盜賊被捕的整個過程頗有偵探小說的味道，因此，當時的報紙都進行了連續報道，比如某某警官如何如何智破奇案等等。我在這裡講的這個故事，便是以當時的報道為基調的。為了盡快進入正題，這裡只能極為簡單地描述一下結論，實在是頗為遺憾。

可能讀者們也想像得到，那位令人佩服的警官利用盜賊遺留在廠長房間裡，那根少見的煙頭一步步深入偵查，為此跑遍了各區較大的香煙店。FIGARO 在埃及國內也賣得不好，所以即便有同類香煙出售，最近賣出這種香煙的店舖也在極

備えてあっても、エジプトの中でも比較的売行きがよくない、FIGARO を最近に売ったという店は極く僅かで、それが悉く、どこの誰それと疑うまでもない様な買手に売られていたのである。

ところが愈々最終という日になって、今もお話した様に、偶然にも、飯田橋附近の一軒の旅館の前で、同じ吸殻を発見して、実は、あてずっぽうに、その旅館に探りを入れて見たのであるが、それがなんと僥倖にも、犯人逮捕の端緒となったのである。

そこで、色々、苦心の末、例えば、その旅館に投宿して居った、その煙草の持主が、工場の支配人から聞いた人相とはまるで違っていたり、なにかして、大分苦心したのであるが、結局、その男の部屋の火鉢の底から、犯行に用いたモーニング其他の服装だとか、鼈甲縁の眼鏡だとか、つけ髭だとかを発見して、逃れぬ証拠によって、所謂紳士泥坊を逮捕することが出来たのである。

で、その泥坊が取調べを受けて白状した所によると、犯行の当日——勿論、その日は職員の給料日と知って訪問したのだが——支配人の留守の間に、隣の計算室に這入って例の金を取ると、折鞘の中にただそれだけを入れて

少數。這樣的話，香煙是賣給甚麼地方的誰誰誰的，目標就相當清楚了。

終於到了最後這天，如同之前所述。警官很偶然地在飯田橋附近的一家旅館門前發現了同類香煙的煙頭。其實也算機緣巧合，到旅館進行調查排摸之後，很僥倖地就這樣將犯人成功抓捕了。

這之後還是費了不少周折。比如，投宿在這家旅館的香煙主人，和工廠廠長所描繪的長相差了十萬八千里。警方也是花了大力氣，最終在男子房間的火盆底下發現了犯罪時使用的禮服以及其他服裝、玳瑁眼鏡、假鬚鬚等。以此作為鐵證，終將紳士盜賊逮捕歸案。

經過審訊，大盜坦白了如下事實。犯罪當天（他自然清楚當天是發工資的日子）趁着廠長離開的一段時間，溜進旁邊計算工資的會客室盜取了財物。帶來的摺疊包裡裝着事先準備好的風衣和鴨舌帽，取出這些物件後再將一部分錢裝進摺疊

居^いつた^{ところ}所^の、レ^んコ^ートとハ^ンチ^ングを^とり^だ取出^{して}、その
 代^{かわ}りに、鞆^{かばん}の中^{なか}へは、盗^{ぬす}んだ紙^き幣^つの^{いち}部^ぶ分^{ぶん}を^いれ^て、眼^め鏡^{がね}
 を^はず^し、口^{くち}髭^{ひげ}を^とり、レ^んコ^ートで^すが^たト^つモー^ニング^の姿^を包^つ
 み、中^{なか}折^{おれ}の代^{かわ}りにハ^ンチ^ングを^かぶ^き冠^{とき}つて、来^きた^と時^{とき}とは別^{べつ}の^で
 口^{ぐち}から、何^{なに}食^くわ^ぬ顔^{かお}を^にし^て逃^にげ^だ出^だした^ので^あっ^た。あ^の小^{しょう}
 額^{がく}の紙^き幣^つで^ごま^んえ^んと^いう^{きん}が^くを、ど^うし^て、誰^{だれ}にも^うた^が疑^う
 わ^れぬ^様に、持^もち^だす^こと^が出^で来^きた^かと^いう^しん^{もん}問^{たい}に^して、紳^{しん}士^し
 泥^{どろ}坊^{ぼう}が、ニ^とク^いヤ^わリと^う得^う意^から^しい^わら^い笑^うひ^かを^うか^か浮^う
 べ^て答^{こた}え^たこ^とに^は、
 「私^{わたくし}共^{ども}は、か^らだ^{ちゅう}中^がが^{ぶくろ}袋^で出^で来^き上^あつ^てい^ます。そ^の
 証^{しょう}拠^こに^は、押^{おう}取^{しゅう}さ^れた^{モー}ニ^ングを^{しら}て^ご御^{らん}覧^なさい。
 ち^よっ^と見^みると^み普^ふ通^{つう}の^{モー}ニ^ングだ^が、実^{じつ}は^て手^て品^{じん}使^{つか}い^の服^{ふく}
 の^{よう}様^に、附^つけ^られ^る丈^{だけ}の^{かく}隠^{かく}し^{ぶくろ}袋^が附^つい^てい^るん^です。
 五^ご万^{まん}円^{ぐら}位^いの^{かね}金^を隠^{かく}す^のは^{わけ}訳^はあ^りま^せん。中^{ちゅう}国^{ごく}人^{じん}の^て手^て品^{じん}
 使^{つか}い^は、大^おき^な、水^{みず}の^は這^い入^りつ^た井^い鉢^{ぼち}で^さえ^から^だの^{なか}中^へ
 隠^{かく}す^では^あり^ませ^んか」。

さて、この泥^{どろ}坊^{ぼう}事^じ件^{けん}が^これ^だけ^でお^しま^いなら、別^{べつ}段^{だん}
 の^{きょう}興^み味^もな^いの^ので^ある^が、茲^こに^ひつ^ふ普^{つう}通^の泥^{どろ}坊^と違^{ちが}つた、
 妙^{みょう}な^{てん}点^{があ}つ^た。そ^して、そ^れが^わた^しの^はな^し私^のお^話の^{ほん}筋^{すじ}に、大^お
 い^に関^{かん}係^{けい}が^ある^訳な^ので^ある。

という^のは、こ^の紳^{しん}士^し泥^{どろ}坊^{ぼう}は、盗^{ぬす}んだ^ごま^んえ^ん五^か万^ぼ円^の隠^{かく}し^ば所^{しょ}

包。摘掉眼鏡，取下鬍鬚，在禮服外套上風衣，用鴨舌帽換下禮帽後，從與來時不同的出口若無其事地逃離了現場。那麼，你是如何將小面額的五萬日元紙幣神不知鬼不覺地帶出去的呢？對於警方的這個質詢，紳士盜賊露出得意的笑容，如此作答道：

「幹我們這行的全身都有口袋。你們仔細檢查下被扣下的禮服就知道了。看上去和普通的禮服毫無二致。但實際上就跟魔術師的服裝一樣，所有能裝的地方都裝上了秘袋。要藏匿五萬日元不費吹灰之力。中國魔術師不是還能把裝滿水的海碗也藏在裡面嘛。」

這起盜竊事件如果到這裡就結束了，倒也並無特別吸引人眼球的地方。但這裡有個和普通盜賊不同的稀奇之處，這和我要講的故事有莫大的關係。

怎麼回事兒呢，原來這個紳士盜賊對於他偷的五萬日元

について、一言も白状しなかったのである。警察と、検事
 廷と、公判廷と、この三つの関所で、手を換え品を換えて
 責め問われても、彼はただ知らないの一点張りで通した。
 そして、おしまいには、その僅か一週間ばかりの間に、
 使い果してしまったのだという様な、出鱈目をさえ言い出
 したのである。

其筋としては、探偵の力によって、その金のありかを探
 し出す外はなかった。そして、随分探したらしいのであるが、
 一向見つからなかった。そこで、その紳士泥坊は、五万円
 隠匿の廉によって、窃盗犯としてはかなり重い懲役に処せ
 られたのである。

困ったのは被害者の工場である。工場としては、犯人
 よりは五万円が発見して欲しかったのである。勿論、警察
 の方でもその金の搜索を止めた訳ではないが、どうも手ぬ
 るい様な気がする。そこで、工場の当の責任者たる支配人
 は、その金を発見したものには、発見額の一割の賞を懸け
 るということを発表した。つまり五千円の懸賞である。

これからお話ししようとする、松村武と私自身とに関す
 る、一寸興味のある物語は、この泥坊事件がこういう風に
 発展している時に起ったことなのである。

的行蹤一句都未交代。警方也好、檢方也好、審判庭也好，這三處機關動用了種種手段對其進行了偵訊，他始終一口咬定毫不知情。最終，索性胡亂搪塞說僅僅在一週時間內就已經把五萬日元花費殆盡了。

作為警方則必須利用刑偵能力千方百計將這筆錢尋找回來。然而苦尋良久卻依然未果。紳士盜賊因隱匿了這五萬日元，作為盜竊犯被判處重刑。

感到最棘手的是作為被害方的工廠。比起犯人，廠方更希望能找回五萬日元。當然警方並未停止對這筆錢的搜尋，但總覺得有點未盡全力。於是，作為工廠負責人的廠長發佈了懸賞令。找回這筆錢的人，可以領取總金額一成的懸賞金，也就是五千日元。

之後所要講述的，是松村武和我自己有關的，頗耐人尋味的故事。這故事正好是接着這起盜竊事件而發生的。

中

この話の冒頭にも一寸述べた様に、その頃、松村武と
 私とは、場末の下駄屋の二階の六畳に、もうどうにもこ
 うにも動きがとれなくなって、窮乏のどん底にのたうち
 廻っていたのである。

でも、あらゆるみじめさの中にも、まだしも幸運であつたのは、丁度時候が春であつたことだ。これは貧乏人だけにしか分らない一つの秘密であるが、冬の終から夏の初にかけて、貧乏人は、大分儲けるのである。いや、儲けたとを感じるのである。というのは、寒い時だけ必要であつた、羽織だとか、下着だとか、ひどいになると、夜具、火鉢の類に至るまで、質屋の蔵へ運ぶことが出来るからである。私共も、そうした氣候の恩恵に浴して、明日はどうなることか、月末の間代の支払はどこから捻出するか、という様な先の心配を除いては、先ず一寸いきをついたのである。そして、暫く遠慮して居った銭湯へも行けば、床屋へも行く、飯屋ではいつもの味噌汁と香の物の代りに、さしみで一合かなんかを奮発するといった塩梅であつた。

ある日のこと、いい心持になって、銭湯から帰って来た

中

如故事開頭所述，那段時間，松村武和我，在地處偏僻的木屐店二樓六張榻榻米的小房間內，整日裡無所事事，一籌莫展，已經窮困潦倒到了極點。

不過，在各式各樣的慘狀之中，還有那麼一絲幸運，那時候幸好正是春天。這裡有一個非窮苦之人難以參透的奧秘。從冬末至夏初，貧困之人雖困苦不堪倒還能賺到一筆，不是感覺還能賺上點錢。那是因為，只有冬天才需要的外套、內衣褲，更有甚者，被子鋪蓋乃至火盆等，都能送到當舖的倉庫裡去。拜季節之福，除去諸如明天的日子將會如何，月底房租要從何處擠出來等擔憂之外，我們暫且算是能喘口氣了。還能跑到因囊中羞澀而久違了的浴室、理髮店打理一下。在飯館也能稍許消費消費，將平日吃厭的味噌湯和泡菜換成生魚片再加上一兩清酒奢侈一番。

有一天，我從浴室回來後，帶着不錯的心情一屁股坐在

わたし きず こわ いっかんぱり つくえ まえ
私が、傷だらけの、毀れかかった一閑張の机の前に、ドッ
カと坐った時、一人残っていた松村武が、妙な、一種の興
奮した様な顔付を以て、私にこんなことを聞いたのである。

「君、この、僕の机の上に二銭銅貨をのせて置いたのは
君だろう。あれは、どこから持って来たのだ」

「アア、俺だよ。さっき煙草を買ったおつりさ」

「どこの煙草屋だ」

「飯屋の隣の、あの婆さんのいる不景気なうちさ」

「フーム、そうか」

と、どういう訳か、松村はひどく考え込んだのである。
そして、尚も執拗にその二銭銅貨について尋ねるのであった。

「君、その時、君が煙草を買った時だ、誰か外にお客は
いなかったかい」

「確か、いなかった様だ。そうだ。いる筈がない。その時
あの婆さんは居眠りをしていたんだ」

この答を聞いて、松村は何か安心した様子であった。

「だが、あの煙草屋には、あの婆さんの外に、どんな連
中がいるんだろう。君は知らないかい」

「俺は、あの婆さんとは仲よしなんだ。あの不景気な仏
頂面が、俺のアブノーマルな嗜好に適したという訳でね。

那張滿身瘡痍、破爛不堪的書桌前。獨自在房間裡的松村武用種奇妙的、頗為興奮的表情看着我問道：

「哎，這個，我書桌上的這枚二錢銅幣是你放的吧。從哪兒弄來的？」

「嗯，是我。剛才買煙時的找頭。」

「哪家香煙店？」

「飯館旁邊，有個老太婆，生意不太好的那家。」

「哦，是嘛。」

不知為何，松村陷入了沉思。接着，他仍然揪住二錢銅幣的事不放，繼續追問道：

「你，那時候，你買香煙的時候，沒有其他顧客吧？」

「應該沒別人了。對，不會有別人，那時老太婆正打盹呢。」

聽完這話，松村顯出放心的樣子。

「不過，那家香煙店，除了老太婆外，店裡還有甚麼傢伙，你知不知道？」

「我跟那老太婆關係不錯。別看她老擺着那副愛理不理、冷冰冰的臭臉，倒正合乎我不同尋常的嗜好。所以，我對那

だから、俺おれは相当そうとうあの煙草屋たばこやについては詳しいくわんだ。あそこには婆さんばあの外ほかに、婆さんばあよりはもっと不景気ふけいきな爺さんじいがいる切りだ。併し君きはそんなことを聞いてどうしようというのだ。どうかしたんじゃないかい」

「マアいい。一寸ちよつと訳わけがあるんだ。ところで君きみが詳しいくわというのなら、もう少しすこあの煙草屋たばこやのことを話はなさないか」

「ウン、話してもいい。爺さんじいと婆さんばあとの間あいだに一人ひとりの娘むすめがある。俺おれは一度いちどか二度にどその娘むすめを見かけたが、そう悪くないわるきりょうだぜ。それがなんでも、監獄かんごくの差入屋さしれやとかへ嫁かたづいているという話はなしだ。その差入屋さしれやが相当そうとうに暮くらしているので、その仕送りしおくで、あの不景気ふけいきな煙草屋たばこやも、つぶれなないで、どうかこうかややっているのだと、いつか婆さんばあが話はなしていたっけ。……」

こう、私わたしが煙草屋たばこやに関する知識かんについて話ちしきし始めた時はなに、驚おどろいたことには、それを話はなしてくれと頼たのんで置おきながら、もう聞き度きくないと云いわぬばかりに、松村武まつむらたけしが立上たちあったのである。そして、広くもない座敷すまを、隅すみから隅すみへ丁度ちやうど動物園どうぶつえんの熊くまの様ように、ノソリノソリあると歩はき始めたのである。

私わたし共どもは、二人共ふたりとも、日頃ひごろから随分ずいぶん気まぐれな方ほうであった。話はなしの間あいだに突然とつぜん立上たちあるなどは、そう珍めずらしいことでもなかつ

家香煙店熟悉得很。那兒除了老太婆以外，只有個比老太婆更冷冰冰的老頭兒。哎，打聽這些幹嗎？怎麼了你？」

「沒甚麼。就點小事兒。不過既然你說熟悉得很，那就再聊聊那家香煙店的事兒吧。」

「行，聊聊也行。老頭和老太有個獨生女。我見過一兩次，還算長得不錯。然而卻嫁給了經營監獄小賣部⁴的商人。這商人生活得挺不錯，經常會送點錢給娘家，所以香煙店的生意雖不好但也不至於倒閉，就這麼撐着。老太婆好像曾經說過這麼檔子事兒。」

如此這般，我聊着那些跟香煙店有關的事兒。然而令人不解的是，央求我說說的松村卻好像完全沒興趣聽似的站了起來。接着，在並不寬敞的榻榻米上，從這個角落到那個角落，像動物園裡的黑熊一樣，來來回回慢慢地踱起步來。

我們倆平日裡隨心所欲慣了，說話間突然站起來，也不

4 專門出售給在押犯日常用品的商店。譯者注。

た。けれども、この場合の松村の態度は、私をして沈黙せしめた程も、変っていたのである。松村はそうして、部屋の中をあっちへ行ったり、こっちへ行ったり、約三十分位歩き廻っていた。私は黙って、一種の興味を以て、それを眺めていた。その光景は、若し傍観者があって、これを見たら、余程狂気じみたものであったに相違ないのである。

そうこうする内に、私は腹が減って来たのである。丁度夕食時分ではあったし、湯に入った私は余計に腹が減った様な気がしたのである。そこで、まだ狂気じみた歩行を続けている松村に、飯屋に行かぬかと勧めて見た所が、「済まないが、君一人で行って呉れ」という返事だ。仕方なく、私はその通りにした。

さて、満腹した私が、飯屋から帰って来ると、なんと珍しいことには、松村が按摩を呼んで、もませていた。以前は私共のお馴染みであった、若い盲啞学校の生徒が、松村の肩につかまって、しきりと何か、持前のお喋りをやっているものであった。

「君、贅沢だと思っちゃいけない。これには訳があるんだ。マア、暫く黙って見ていて呉れ。その内に分るから」
松村は、私の機先を制して、非難を予防する様に云つ

算甚麼稀奇的事情。但是，這時候松村的態度，卻着實有點怪異，怪到甚至讓我靜默了下來。松村就這樣在房間裡踱來踱去，走了大概有三分鐘。我則保持着沉默，饒有興味地注視着他。若有旁觀者在場，看到這幅畫面，肯定會感到無聊。

漸漸地，我感到肚內空空如也。正好是晚飯時分，泡過澡後更是感到飢餓難耐。我喊了仍在踱步的松村，問他去不去飯館。「不好意思，你一個人去吧。」他回答道。我無計可施，只好照他所言行事。

我飽餐一頓後，回到房間，卻目睹了稀奇的一幕。松村竟然叫來了按摩師傅，正在那兒揉着呢。按摩師傅是以前跟我們都挺熟的盲啞學校的學生，一面按着松村的肩膀，一面以他特有的說話方式，在那兒不停地念叨着甚麼。

「可別覺得這是我奢侈，是有原因的。你別說話先看着，待會兒就知道為甚麼了。」

松村像怕我責怪他似的，先堵住了我的嘴。昨天在當舖

た。昨日、質屋の番頭を説きつけて、寧ろ強奪して、やっ
 と手に入れた二十円ながしの共有財産の寿命が、按摩
 賃六十銭だけ縮められることは、此際、確かに贅沢に相違
 なかったからである。

私は、これらの、ただならぬ松村の態度について、ある、
 言い知れぬ興味を覚えた。そこで、私は自分の机の前に
 坐って、古本屋で買って来た講談本か何かを、読耽ってい
 る様子をした。そして、実は松村の挙動をソツと盗み見て
 いたのである。

按摩が帰ってしまうと、松村も彼の机の前に坐って、何
 か紙切れに書いたものを読んでいる様であったが、やがて
 彼は懐中から、もう一枚の紙切れを取出して机の上に置
 いた。それは、極薄く、二寸四方形の、小さいもので、細
 い文字が一面に認めてあった。彼は、この二枚の紙片れを、
 熱心に比較研究している様であった。そして、鉛筆を以て、
 新聞紙の余白に、何か書いては消し、書いては消していた。

そんなことをしている間に、電燈が点いたり、表通り
 を豆腐屋のラッパが通り過ぎたり、縁日にでも行くらしい
 人通りが、暫く続いたり、それが途絶えると、蕎麦屋の哀
 れげなチャルメラの音が聞えたりして、いつの間にか夜が

跟當班的好說歹說，磨破了嘴皮，或者直截了當說就是明搶，多不容易才搞到的二十日元的共同財產。而這筆錢的小命在按摩上就縮短了六十錢。這種情形，不叫奢侈又能叫甚麼。

看着松村這些非同尋常的行事，我內心不由得湧起一種難以名狀的興趣。於是，我坐在自己的書桌前，拿出本舊書店淘來的評書小說或者其他甚麼書，佯裝讀得相當投入，其實偷偷地窺探着松村的一舉一動。

按摩師傅離開後，松村也在他的書桌前坐下，讀着寫在一張小紙片上的東西。不一會兒，他又從懷裡摸出另一張小紙片放在了書桌上。那是張極薄、只有二寸⁵大小的正方形紙片，看得出紙片上寫滿了蠅頭小字。他拿着這兩張小紙片專心地對比、研究着，不時地用鉛筆在報紙的空白處，反反覆覆地寫了擦，擦了寫。

忙着這些事情的過程中，街燈點亮了，賣豆腐的小喇叭穿過街面，趕廟會的人潮蜂擁而來，又漸行漸遠。靜謐的街道上又響起蕎麥麵挑子哀切的噴吶聲，不知不覺中夜漸漸深

5 日本一寸約 30 毫米。譯者注。